



大阪市立大学の取り組み：一歴史教員の立場からく報告2> (第4章 第2回国公立大学フォーラム：「地域歴史文化の保全・継承と広域災害に備えた大学間ネットワークの形成のために」)

佐賀, 朝

(Citation)

地域歴史遺産保全活用教育研究を基軸とした地域歴史文化育成支援拠点の整備, 特別研究プロジェクト(平成24年度最終事業報告書):30-30

(Issue Date)

2013-03-31

(Resource Type)

research report

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81005290>



報告②

大阪市立大学の取り組み --歴史教員の立場から--

佐賀 朝

(文学研究科日本史学教室)

1. 主題に関わる日本史学教室（周辺）の取り組み

- ・和泉市との合同調査、地域の歴史的総合調査研究（2011年12月塚田孝報告を参照）
…2012年で16回を数える毎年の合同調査／和泉市史編さん事業との連動／院生・学部生教育と一体／個性的な地域史像の構成と叙述を主眼に／近年の工夫の努力
→地域の個性や、調査・研究を通じた地域史像の深化など研究内容本位の取り組み
- ・大阪歴史博物館との連携
＊大阪市立大学重点研究「近世都市大坂の歴史構想と史料テキストの開発」（2010～12年度、研究代表者：塚田）
…学生向け・市民向け・外国人向けを想定した近世大坂の古文書テキストの作成と活用／大学の授業と歴博の古文書講座での活用（試行）／外国の日本史研究者とも連携
→史料を読み解く楽しさを市民と共有するための実践とも言える
- ・地域資料シンポ実行委員会・地域資料研究会
＊地域資料研究会…「地域資料の保存・活用ネットワークの実践に関する研究」（2011-2013年度、桃山学院大学地域社会連携研究プロジェクト、研究分担者：佐賀）
…2003年の第1回シンポ以来の歴史学会・史料ネット・史料保存機関・大学プロジェクトの連携／WEBサイトを活用した史料所在情報の共有、文書館等の利用拡大策の提言／大阪府市公文書館問題への対応
→神大・地域連携センターの「ひょうご歴史資料情報基盤システム」構築の取り組みとは響き合うところ大

2. 課題は山積

- ・大阪府市の史料保存関係機関などとの連携
…和泉市史や歴博（これ自体も日本史学教室一市大OB・OGの人脈による部分大きい）のほかは、意識的なネットワークづくりは未着手
→大阪府域に広げることも重要だが、まずは身の丈にあう形で提携先を開拓するか
- ・災害対応
…地震・津波も含めた大阪における災害時の史料保全対策は大きな課題だが、ほとんど未着手
→史料ネットや上記の地域資料シンポ実行委員会などが身近に存在する強みを活かして、まずは課題の整理とアプローチのための議論や調査が必要か